

-平成29年(2017年)10月13日 金曜日

第3345号 (昭和45年12月3日第三種郵便物認可)

日刊第15191号

市民タイムス

塩 尻

第2塩尻 6面に

発行所 市民タイムス:本社 〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL(0263) 2417-7777 編集47-7774 広告47-2000 販売47-4755 心市民タイムス2017年
FAX(0263) 2417-2422 編集47-1654 広告47-5585 販売47-2422 支社:安曇野・塩尻 支局:長野・木曽塩尻支社/〒399-0746塩尻市大門並木町7-5
TEL(0263)54-0085 FAX(0263)53-4442

地球の宝石箱ニュース

世界5大陸の鉱物500点

昨年10月に発行しました「鉦友会だより第51号」で、地球の宝石箱開館20周年記念特別展を特集しましたが、その「岡部コレクション」についてもご紹介いたしました。この「岡部コレクション」について、地元紙の「市民タイムス」で大きく取り扱っていましたので、時期を逸しましたが、ここに改めてご紹介することにいたしました。

岡部コレクション



岡部陽二さん

特別展示室に
ずらりと並べ
られた世界の
鉱物標本

世界5大陸の鉱物約500点からなる「岡部陽二コレクション」が今夏から、塩尻市北小野の鉱物博物館「ミュージアム鉱研・地球の宝石箱」で大々的に公開されている。地球の宝石箱の設立に携わった、元住友銀行専務で元広島国際大学教授の岡部陽二さん(83)―東京都三鷹市―が収集した標本で、傘寿を機に同館に寄贈された。目にも鮮やかな数々が来館者を地質鉱物の世界へと誘っている。(有賀文香)



地球の宝石箱で公開

アルゼンチンの菱マンガン鉱やモロッコの方鉛鉱、南アフリカのエトリング石やインドのカパンシ石、オーゲン石など、500点のうち約200点が特別展示室を埋め尽くしている。ひとえに鉱物と言っても色、形、質感とも千差万別だ。昨年寄贈を受け、同館の開館20周年に合わせて公開された。

岡部さんが世界の鉱物を集め出したのは40代の頃。住友銀行の国際投融資部長やロンドン支店長、国際部門担当専務などを歴任し、長年の海外勤務を経る中で、少年時代に「石には魂がある」を信条とする。「人と同様、型にはめてできたものは一つもない。子供たちが広く地学へと興味を持つ一助として活用してもらえれば」と話している。

岡部陽二氏寄贈の鉱物展示

地球の宝石箱 元館長 新田仁一

平成26年8月に末永社長から、会社として大切な方である岡部陽二さんが、「収集した鉱物を寄贈したい」との申し出があるので、地球の宝石箱で展示保管をしてほしい、ついで

ては本社で打ち合わせをしたい。との電話をいただきました。

同年9月1日に本社で打ち合わせた後、11月中旬に段ボール箱30数個で約5000点の鉱物を寄贈していただきました。

翌年4月から月替わり鉱物ミニ展示として20個の展示を始めました。

品目が不明な鉱物が幾つかありましたので、鉱研OBの加藤信一さん、阿部喜治さん

塚本 靖さんの方々に「来館いただき、地質学」専門のお立場から分類のご協力をいただき、また信州大学理学部の先生にも見ていただきました。

平成29年は、本社創立70周年、そして地

球の宝石箱開館20周年でしたので、「岡部コレクション特別展」を併設いたしました。

寄贈いただいた約5000点の中から、一

〇点をショーケース8本と長テーブル2本に鉱物標本箱4箱85個も特別展示室に展示しました。

平成29年9月になって、地元松本塩尻地区

「車骨鉱」は主に鉛からなる斜方晶系の硫酸鉱物(硫化鉱物)で、産出地は埼玉県秩父鉱山・石川県の倉谷鉱山などが知られている。



岡部様のご協力に感謝申し上げます。今回寄贈していただき展示されている鉱物の中で、私の一番のお気に入りには「車骨鉱」です。

のローカル新聞である「市民タイムス社」より岡部コレクションの掲載を行いたい、岡部陽二さんへの取材もさせてほしいとの申し入れがありまして、本社白木取締役にお願ひして、取材協力を快諾していただきまして、10月に入り、2度にわたって新聞に掲載されました。収集の動機、楽しみなど、岡部陽二さんが長年にわたって収集して来られた思いが寄せられました。



タイクス調査隊

593

岡部さんの鉱物コレクション

塩尻市北小野の鉱物博物館「地球の宝石箱」が公開している「岡部陽二コレクション」が面白い。個性豊かな世界の鉱物や化石約500点からなるコレクションだ。これだけの量をなぜ、どのように集めたのだろうか。人をひきつけてやまない魅力はどこにあるのだろうか。収集者で、同館に寄贈した岡部陽二さん(83)に東京都三鷹市を訪問した。

塩尻市北小野の鉱物博物館「地球の宝石箱」が公開している「岡部陽二コレクション」が面白い。個性豊かな世界の鉱物や化石約500点からなるコレクションだ。これだけの量をなぜ、どのように集めたのだろうか。人をひきつけてやまない魅力はどこにあるのだろうか。収集者で、同館に寄贈した岡部陽二さん(83)に東京都三鷹市を訪問した。

し、ロンドン支店長や専務、明光証券会長などを歴任した方で意外にも経歴は鉱物にかすらない。鉱物との出会いは中学時代。当時暮らした

趣味として独立するわけではない」とも語る。少年時代、鉱物に接する中で養ったのは、「肉眼や嗅覚など五感で鑑定する力」と「地形や地層の由来を考へ、地質と鉱物を一体として鑑賞する癖」だった。師匠の益富氏も

で「世の中にどんな種類が存在し、それぞれどう違うかを比較研究する」中に醍醐味があふれる。加工品でなく、天然の姿に近い原石を求め続けた背景には、地球の不思議を探究したいというロマンがあつたのだ。

塩尻の博物館に寄贈、公開

地球の不思議探究への鍵

京都府に鉱物標本館があり、登下校のたび眺めていたところ、開設者の薬学博士・益富寿之助氏(1901)に招き入れられたのという。以来、益や奇石を集め出した。

好奇心から来る美しいものへの憧憬と収集癖を満たしたと振り返る。就職後は一時鉱物から離れたが海外赴任を機に再燃、世界の結晶

贈された数々だ。こう聞くと非常にぜいたくな趣味にも聞こえるが、岡部さんは「お金を物を言わせるのでは意味がない」と話す。加えて「収集だけが一つの

の博物館も目にしてた岡部さんは、地球宝石箱について「民の施設では日本で断つにすごい」と語っていた。一方、国内で地質学系の専門家が

10月初旬、都内の待ち合わせ場所に現れた岡部さんは背が高い、気さくな男性だった。京都大学法学部を卒業後、住友銀行に入行

奇心から来る美しいものへの憧憬と収集癖を満たしたと振り返る。就職後は一時鉱物から離れたが海外赴任を機に再燃、世界の結晶

贈された数々だ。こう聞くと非常にぜいたくな趣味にも聞こえるが、岡部さんは「お金を物を言わせるのでは意味がない」と話す。加えて「収集だけが一つの

の博物館も目にしてた岡部さんは、地球宝石箱について「民の施設では日本で断つにすごい」と語っていた。一方、国内で地質学系の専門家が



「コレクションの一部(上から中沸石、藍銅鉱、オーケン石)」



鉱物の魅力を語る岡部さん

に引き出すで、未来を育める必が求められる。(有賀文香)

地球の宝石箱には「岡部陽二鉱物コレクション」の特別展示室がある。



岡部陽二コレクションの特別展示室

岡部陽二 鉱物コレクション

協力：岡部陽二氏



新田仁一館長「退職」

7年間、地球の宝石箱の館長として勤務されて来られた新田仁一さんは、去る3月31日付けで契約満了により退職されました。

後任の新館長との業務引き継ぎや、シーズンを控えて来館者も多くなることから、しばらくはアルバイトとして勤務されることになるそうです。後任の新館長は別掲でご紹介いたします。

新田仁一氏のご挨拶

地球の宝石箱の新田です。

この度、3月31日で退職することになりました。お会い出来ないと思いますので、メールでのご挨拶にて失礼いたします。

7年間、地球の宝石箱で館の管理・運営と総合的な仕事をさせていただきました。

本社の多くの方々、OBの方々、本社取引先のお客様とお会いし、少しでも会社にとつての営業活動に寄与できるよう努めてまいりました。

また、昨年は、館の開館20周年に重なり、多くの方々のご協力をいただき、成功裏に進めることができました。

本社の仕事の一つに、リニア新幹線工事という大きな仕事があります。多くのお客様が当地へ来られ、地球の宝石箱へ寄られることと思います。何かお手伝い出来ることがありましたら、ご協力をさせていただけたらと思っております。

今まで、本当にありがとうございました。最後になりましたが、ご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成30年3月28日

ミュージアム鉱研

「地球の宝石箱」

新館長ご紹介

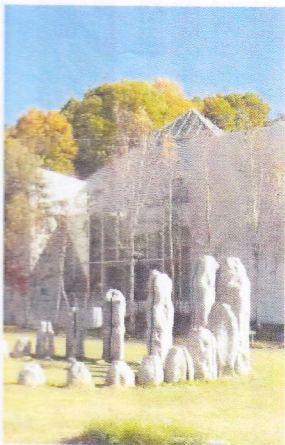
お名前…北澤 尚之(きたざわ なおゆき) 殿
昭和51年信州大学教育学部を卒業の後、長年に亘り長野県内の小中学校の教諭として勤務されてきました。

本年3月に松本市立波田中学校を退職され、同年4月1日付けで嘱託として鉱研工業株式会社、地球の宝石箱館長として入社されました。(当年65歳)

【お断り】

本号の「地球の宝石箱ニュース」ならびに「新田館長ご退職」と「新館長ご紹介」の記事は、会報前第53号(夏号)に掲載の予定でしたが、原稿の入手に手違いが生じ、夏号への掲載が間に合わず時機を逸してしまいましたことを、ここに深くお詫び申し上げます。また、新田前館長のご挨拶は、新村会長宛のメールによる挨拶文です。

以上、ご理解ご了承くださいるようお願い申し上げます。
(編集部)



いいいの森だより

「地球の宝石箱」のまわりは、自然の物がいっぱい「いいいの森」が広がっています。帰化植物におされて少なくなてしまった日本古来の植物が、いいいの森では大切に育てられています。



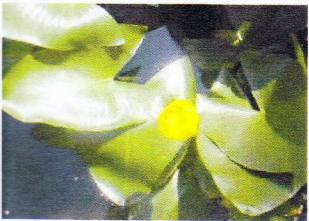
ヤマボウシ

ヤマボウシは、9月頃にイチゴのような実がなるため「ジャパニーズストロベリー ツリー」とも呼ばれています。その実は赤く熟して食べられます。ほんのり甘い実を、私たちも食べてみたいですね。



コスモス

コスモスはいいの森にも咲いています。辺りの畑に一面に咲き乱れていてとてもきれいです。「秋桜」という名前がついているので、日本の花のような気がしますが原産国はメキシコです。



コウホネ

公園内の池には、コウホネの花が咲きます。コウホネは漢字で「河骨」と書きま。この花は水中には葉だけが現れて、地下に茎が伸びているのですが、この茎が真っ白い色をしているので、まるで骨の上に見えるからだそうです。